

新社会人フォローアップ研修を実施しました

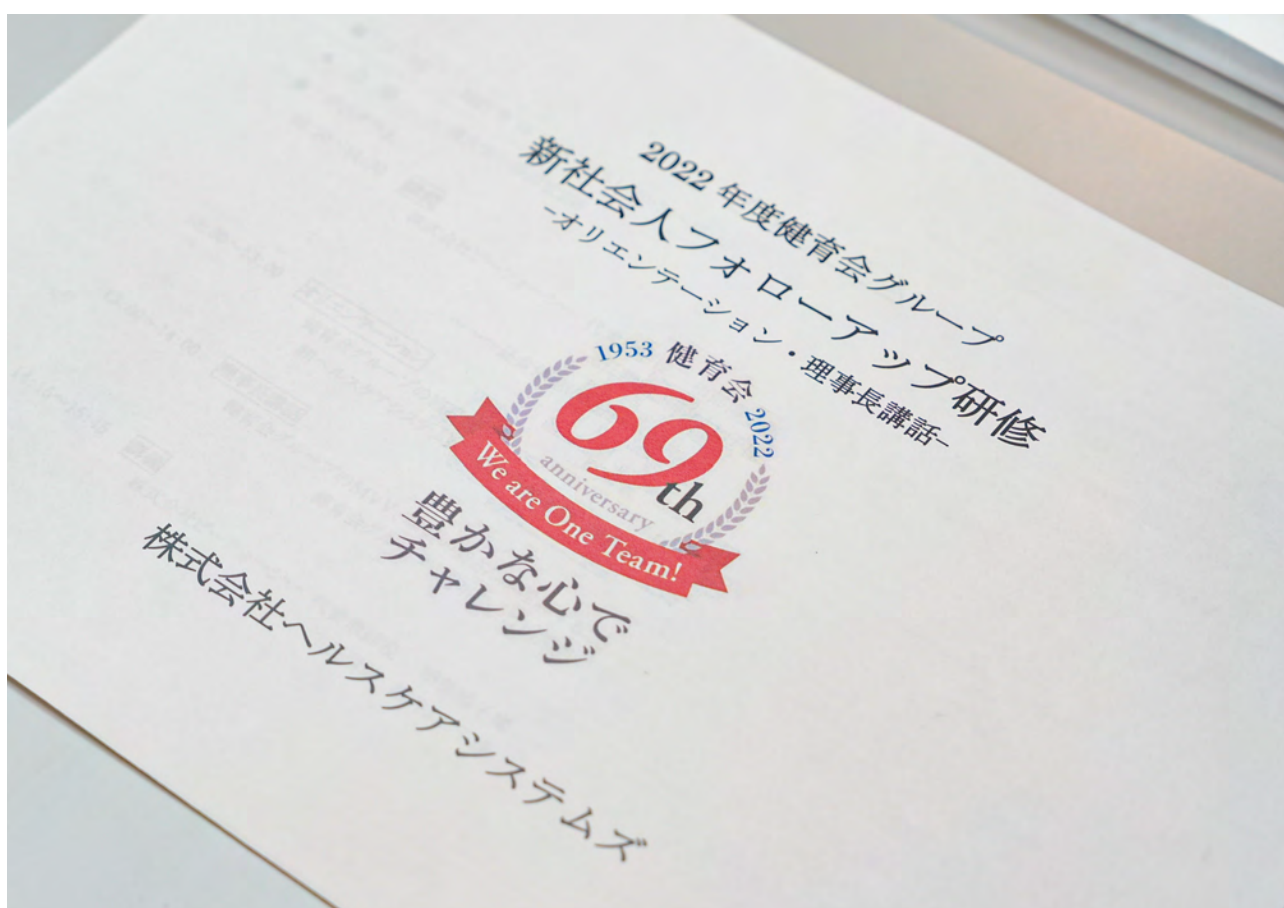
医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



10月19日、毎年4月に入職した新社会人に向けて行なっている新社会人フォローアップ研修を実施しました。私から新社会人の皆さんに、健育会グループが目指す理想像について語りました。その時の様子をお伝えします。

健育会グループは本年4月に124名の新社会人を迎え、すでに半年が経ちました。新社会人の皆さんが仕事にも慣れてくるこの時期、毎年開催しているのが、本格的に健育会グループの一員になってもらうために行うフォローアップ研修です。

今年は10月19日に、全国にある健育会グループの各施設で働く新社会人が東京・神保町の一橋講堂に会し、組織で働く心構えについての研修と、理事長講話を兼ねたオリエンテーションを受けました。



はじめに、ビーフォーシーの講師陣によるフォローアップ研修がスタート。全体で2グループ、それぞれ15班に分かれ、ディスカッション形式での意見交換と代表者発表の形式で進行了ました。



まずは入職からの半年間を振り返り、4月の新入職員研修で学んだ「組織人に必要な5つの意識」が身についているかの確認や、医療事故を招くヒヤリハットの要因や対処法についての講習を行いました。

その後、一橋講堂に移動してオリエンテーションを実施。健育会グループ創立60周年に製作したビデオを視聴し、創立からの歴史や私の理事長就任時の想いなどを伝えました。



私からは、健育会グループの独自性やMVV（ミッション、ヴィジョン、バリュー）を新社会人の皆さんに理解してもらうため、様々な実例や自身の想いを交えて以下のような話をしました。



皆さん、こんにちは。一堂に集まって話を聞いてもらうのは4月以降半年ぶりです。本日は、健育会グループが目指す目標と病院理念についてお話ししたいと思います。

まず、法人や病院などの団体・組織は、社会にどう貢献できるかというミッション（使命）が必要です。そして組織の一人一人が使命をしっかりと理解し、そこに向かって役割分担しながら日々の業務の中で積み上げていくことが欠かせません。まずは、皆さんにそうした自覚を持ってほしいと思います。

健育会グループが掲げるミッションは、「光り輝く民間病院グループ」です。このミッションは、私が先代から理事長職を受け継いだ時に生まれたものです。

私は大学病院で8年間臨床医師として勤めた後、健育会グループの理事長を継いで経営職に就くという選択肢を選ぶこととなりました。そこで、社会に貢献できる医療法人グループとして健育会にしかできないことをしなければならぬと思い、このミッションを考え出しました。



30年前の当時、医療は人の命を扱う特殊なものだから、立派な医療を提供する病院が赤字経営になるのは当然という常識がありました。それゆえほとんどの公立病院は赤字続きで、そこで生まれた負債は国が賄っていました。医療は“聖域”だったのです。一方の民間病院は、レベルが低く儲け主義だから黒字経営ができるんだという認識が浸透していました。

しかし、そうした考えではいずれ日本の医療は立ち行かなくなると私は考えました。当時日本は豊かだったので公立病院の赤字を賄うことができましたが、今後国の財政が逼迫してくればそうはいきません。将来的に赤字ばかりを出す公立病院は縮小し、病院数は減少して、救急のたらい回しに代表される様な患者さんが病院で適切な治療を受けられなくなる事態が頻発し、医療崩壊が起こってしまう。

その時に我々民間病院こそが、健全な経営のもとで質の高い医療を提供し、永続的に日本の医療を支えていくパイオニアになること。それが健育会グループのミッションである「光り輝く民間病院グループ」であると考えたのです。



事実、そうした時は予想よりも早く訪れました。2008年にメディアで医療崩壊が叫ばれるようになります。国立病院は国立病院機構へと変わり、経営再編など様々な努力がようやく始まりました。まさに、健育会グループのミッションは社会に必要なものとなったのです。

そして今年から、健育会グループでは民間病院として健全な経営を行っていくというミッションに加え、「愛情を持って親身な対応」という定義を付け加えました。親身な対応で、患者さんの心が豊かになるような医療を提供していくという使命です。

これは、ダウン症候群や自閉症など障害を持つ子供さんが、親の親身な愛情で幸せな人生を送っている事例を見て、愛情を持って親身な対応をすることで、その人の治癒力や生命力を生かせるということを知ったからです。光り輝く民間病院は、人間の尊厳を持ってその人らしく生きてもらうことを尊重していく使命も持っているのです。



続いて、民間病院ならではのチャレンジ精神とスピード感について、健育会グループの各施設で経験した実例を紹介。石巻健育会病院（旧石巻港湾病院）の東日本大震災時における迅速な対応・復旧の事例や、救急搬送を断らない病院として35年間黒字経営を続けてきた西伊豆健育会の実績、湘南慶育病院の大学との共同研究体制、石川島記念病院のコロナ病棟への素早い転換についてなどを新入社員の皆さんに伝えました。



これらのミッションを達成するためには、長期的目標であるビジョン（長期的目標）が大切になります。健育会グループが掲げるビジョンは、「クライアントの心を豊かにする病院グループになること」。患者さんの心が豊かになる質の高い医療を、チームでバランスよく提供することが目標です。ここでいう質の高い医療とは、押しつけの医療ではなく、目の前の患者さんに必要な医療を提供すること。高度な医療を行う高機能病院とは全く次元が異なります。

患者さんは豊かな人生を送るために病気を治したいと思っています。ですから私たちが目指すべきは、患者さん一人一人が求めているものを見極め、豊かな人生を送るために適切な医療行為を行わなければなりません。



また医療は、サービス業としての側面も重要です。私たち医療人が大切にすべきことは、人間の尊厳を平等に扱うことです。私は40年に及ぶ医療人としての経験で、すべての人の命を平等に扱うのは現実的に難しいことを知りました。世界的に見ても、平等に扱えている病院はないでしょう。しかし、人間の尊厳は皆さんの意識一つで平等に扱うことができます。私の役割は皆さんの心を豊かにすることだと考えています。そのために職員全員に仕事のやりがい、人生の夢、「使命感を育てること」を約束します。日々新しい学びや知識を取り入れて、やりがいを持って働いてほしいと思っています。

そして私が、理事長として全ての責任を取ります。理事長に就任して以来、私は24時間オンコールで指示を出してきました。それができなくなったら理事長をおりる覚悟でいます。これからも皆さんと一緒に頑張っていきます。皆さんも日本の医療を支えていくつもりで、自信と誇りを持って働いてほしいと思います！

この研修で学んだことをしっかりと理解し、健育会グループの使命達成に向けて、日々の業務に落とし込む意識を持ってください。